

みなと元町 Town News

発行:みなと元町タウン協議会 住所:〒650-0022 神戸市中央区元町通3-13-1協和会館内 発行人:奈良山喬一 編集人:岩田照彦 電話・FAX:078-391-0831



神戸の明るい未来を目指し「さらなる高み」へ



神戸市長 久元喜造

在する地域へと様相が
変わりつつあります。そ
の中で、これまでの「お
しゃれ」で「モダン」な雰
囲気はそのままに、様々
な人々が暮らし、集うこと
で、さらなるにぎわいと活
気が溢れるまちとなつて
おります。このように社会
情勢の変化などを柔軟
に取り入れ、発展させて
いく様は、まさにミナト神

エレベーターの設置や平成27年
より設置を進めている「コベリン」
のポート増設など、都心部の回遊
性の向上に取り組んでいるところ
です。また、神戸港への客船の誘
致活動の推進により、多くの観光
客のみなさんが神戸市を訪れてお
り、これらの状況の変化にも柔軟
に対応できるまちだからこそ、現
在の元町の活性化に繋がってい
るものと思います。

さて、昨年は大雨による水害、度
重なる台風、大阪府北部地震など
大規模な自然災害が相次ぎました。
神戸市では、平成27年に完成した
中突堤ポンプ場をはじめ、防災、減
災への取り組みを進めているところ
ですが、今後も日頃から熱心に地
域活動を行っておられるみなさまと
手を取り合つて、安全・安心なまち
づくりを進めていきたいと考えてお
りますので、引き続き神戸市政にお
力添え賜りますようお願い申し上げ
ます。

最後になりましたが、みなさまのよ
り一層のご活躍とご発展を祈念いた
しまして新年のご挨拶とさせていただきます。

みなと元町タウン協議会のみなさま、
新年あけましておめでとうございます。
みなさまの協議会は、平成3年3月の
発足以来、25年以上の長きにわたり元
町周辺の活性化のため、様々なまちづ
くり活動に取り組み続けてこれまし
たことに心から敬意を表しますととも
に、平素から本市行政に多大なるご協
力を賜り、深く感謝申し上げます。

元町地域は、古くから旧西国街道沿
いのまちとして、また150年前の開港を
契機に、みなとまちの中心「神戸」発祥
のまちとして、神戸の歴史をともに歩ん
できたまちです。

近年のみなと元町地区は、かつての
商業・業務地域から住居と商業が混

戸を象徴するまちと言えます。これもひ
とえに、地域のみなさまが日頃から行
われているまちづくり活動の賜物だと
感じております。
神戸市といたしましても、人口減少の
局面を迎えている現在、神戸都心の中
心地であるみなと元町地区が、人々が
集い、にぎわいと活気があるまちである
ことは、神戸の将来を考えていく上で、
非常に心強く感じているところです。

神戸市では都心再整備に取り組
んでいるところですが、昨年4月に
JR元町駅東口に「まちなか拠点」と
して、みなとの泊をイメージした階段
状の待ち合わせスペースを整備いた
しました。さらに、阪神西元町駅への

「元町・夢街道」

書店の話(19)

日東館 ②

岩田 照彦

廃刊に追い込まれた出版社の書籍を
雑誌の形にして発行、その販売所とし
て発足した店だけに、出版事業につい
ても熱心だった。
片山正代が「歴史と神戸」十八巻第
一号に記載の文から紹介する。

明治二十五年

護法活論 石丸蜻民(甚八) 編

明治三十年

神戸名勝案内記 鍋島直身編

明治三十九年

医師法正解・付属諸法規

鈴木丈之助述・仲彦三郎

大正四年

神戸古今対象地図 石丸甚八編

昭和十二年

神戸市葺合区市街地図

神戸近郊実測部編

昭和十二年

神戸市 神戸区市街地図

神戸近郊実測部編

昭和十二年 神戸市湊東区全図

昭和十二年 神戸市兵庫区全図

神戸市近郊実測部編

ほかにも多数あつたであろうが確認
できない、片山のことわりにある通り、
もともと出版したもの販売するための
書店として発足した経緯を振り返れば、
かなりの本が大阪の石丸のもと、出版さ
れていたことが想像される。が、その後
の不況もあつて、神戸での発行として確
認できる書物は限られたようだ。ただし
郷土関係の観光案内・地図・絵はがきな
どの出版は行われていたようだ。

片山はいう。
戦争の機運が高まるなか刊行物はみら
れなくなり、再開した後の出版物として、

昭和三十七年

本場のトランプ 加賀見和彦

昭和四十年

詩集「IN・JAPAN」 丸木明子

昭和四十二年

一〇〇年の詩集 兵庫 神戸詩人の歩み

蜘蛛編集グループ

昭和四十五年

神戸の史跡と文学 池本良雄編

昭和四十五年

兵庫風土記(第一、第二部) 杜山 悠

昭和四十六年

編集を担当していた各務豊和が、拠点を
神戸市須磨区須磨寺町に移し日東館出版
として独立する。編集した本を販売する
ための書店を開いた甚八の目に、この姿
はどう理解されたのだろうか。日東館出版
の刊行物の一部を紹介する。

昭和四十七年

平家物語と神戸 杜山 悠

昭和四十八年

人生のプランコ あるサーカスの子

上野茂雄

昭和五十年

僕は太陽が待てなかった 福井恒美

昭和五十一年

小説「父の骨」 谷村礼三郎

昭和五十二年

日本古代の神祇と政治 熊谷保孝

元町通五丁目の店舗は三宮へ移転、日東
館の名前は元町から消えたままである。



栄町通まちづくり委員会は12月14日
(金)10時から10時30分まで、栄町通を
中心に、ゴミ拾いと不法ビラ撤去、自転車・
バイクなどへの不法駐輪警告チラシ取り付
け作業など、栄町通クリーン大作戦を実施
した。参加者は、(元栄海三丁目協和会)奈
良山喬一、(神戸市住宅都市局)田中淳也、
(兵庫県信用組合)森田絢・竹村空朗・仲川
雅夫・亀田仁、(広島銀行)森礼子、(三鈴マ
シナリー(株))野田常美、(大一産業)石井淳
麻、(神明倉庫)藤尾憲弘・十時実希、(㈱
イーエスプランニング)藤澤達也・新宅さき
子・岩井華奈、(佐野運輸)高寺宏聡・北島
幸宏、(新光明飾(株))西村友博・篠原博明・
大森貴美子、(佐田野不動産(株))佐田野宏
之以上、20名のみなさんでした。毎月第2
金曜日午前10時、栄町通6丁目佐田野不
動産前集合の上、実施しています。お気軽
にご参加ください。



編集後記

日本では、使い慣れ
ている「生き甲斐」に
ついての本が、外国で
ベストセラーになつ
ていると聞いた。著者
は日本に住んで十二
年になる外国人であ
る。仕事と休暇(楽し
み)を明確に区別する暮ら
しになんだ国の人たち
には、生きるというこ
一つにまとめて考える思
考のないことから、「生き
甲斐」という言葉が生ま
れてこなかったのだろ
う。「生きがいの時間、常
に生きがいの整合性を
気にしている日本人、と
いつても過言ではな
い。「生き甲斐」が色あせ
くると気力が衰え元氣に
艶を失っていく。日本人に
とつて「生き甲斐」は、生
ていくエネルギーの源泉
になつてゐるのだらう。今
年もまた「生き甲斐」のあ
る年でありますように。

神戸元町商店街 楽市楽座 情報 1月

◆元町1番街商店街振興組合 TEL331-7850

水曜市 1月16日(水)11時～19時

◆元町6丁目商店街振興組合 TEL367-5477

モトロク市 1月12日(土)11時～17時

(毎月第2土曜日開催)

◆風月堂ホール(有料) TEL321-5555

もとまち寄席「恋離亭」 1月10日(木)

桂 治門 桂 歌之助 笑福亭 岐代松

露の都 桂 團朝 桂 文珍

前売券は12月11日より風月堂で発売

◆こうべまちづくり会館ギャラリー(無料) TEL361-4523

1月5日(土)～1月8日(火)復興パネル展

1月10日(木)～1月15日(火)復興パネル展

1月17日(木)～1月22日(火)

時空・港神戸 第3弾 山なみ…緑編

(絵画・写真等)

1月25日(金)～1月29日(火)

第30回ろうきん公募写真展

1月31日(木)～2月5日(火)CG・写真展

◆元町映画館(有料) TEL366-2636

1月1日(火)～1月4日(金)『寝ても覚めても』

海という名の本屋が消えた (62)

平野義昌

川崎・三菱大争議と賀川豊彦(その1)

米騒動から3年後、神戸の街中を労働者が大デモ行進を行った。1921(大正10)年7月10日、会下山公園(えげやま、湊川公園北西の丘陵)に三菱造船所、川崎造船所をはじめ神戸市内の工場労働者たちが集合した。

朝日新聞は、「日本空前の労働大示威 三万の労働者 神戸市中を行進す」と報道。註1

神戸新聞は、「労働団三万、大示威を起し 旌旗翻り喊声轟く」行列実に二里餘に及べども秩序整然たり」と書いた。註2

労働者たちを結びつけたのは組合組織・友愛会。1912(大正元)年鈴木文治が創立したキリスト教精神に基づく労働者親睦団体。相愛扶助、識見の開発、徳性の涵養、技術の進歩、共同で地位の改善を目指した。大逆事件[補註1]直後のことで、労働・社会運動は萎縮していた。その後、第一次世界大戦開戦・終戦により、好不況の波・物価上昇で労働者の暮らしは不安定だった。一方、労働力需要は激増して、彼らの立場は強まり、友愛会の勢力も大きくなった。神戸では川崎造船所労働者を中心に14年に分会、15年に支部が発足した。17年のロシア革命、国内では大正デモクラシー運動、米騒動、普通選挙運動、市民の政治・社会意識が高まっていった。

7.10デモに労働者ではないリーダーがいた。日本基督教会伝道者・賀川豊彦(1888～1960年、神戸市生まれ)。日本の社会福祉、労働運動、農民運動、生活協同組合、国際平和活動を牽引した人物だ。神学生だった1909(明治42)年から新川(新生田川)の貧民救済に献身した。14(大正3)年から2年余りアメリカ留学、貧困問題を研究し、現地の労働運動に触れた。神戸に戻り、貧困問題から労働運動を考えていた。労働者は決して貧民ではないか常に貧民の上にいる、と。〈……労働者は自由な労働者として、常に失業の不安をもち、病気、負傷等によって収入が不安定・不足となり、生活が放漫になる、という諸事情で、貧民窟に堕ちていくのである。このような事実は、賀川が新川貧民窟のなかで、毎日のように見ていた現実であった。だから、貧民問題を解決しようとするれば、どうしても、労働者が自覚して生活而建てなおすとともに、病気や負傷の場合にも生活が保障される体制を作らねばならぬし、失業のない社会を作っていかなければならない、ということになるわけである。〉註3

1917(大正6)年9月、賀川は友愛会神戸連合会の講演会――アメリカの鉄輸出禁止に対し、労働者の立場から抗議する集会――に呼ばれ、演説した。10月、同連合会評議委員に推薦された。翌年葺合支部長に就任すると、組織改革に着手、会費を15銭から20銭に値上げし、各支部の活動費を確保した。これにより、書記採用、会報発行、人事相談所新設、連合会事務所設置など、組合としての形態を整えた。

賀川は労働運動と普通選挙運動を結びつけて、20歳以上の男子に選挙権を求める普通選挙法改正を訴えた。議会改革による労働者の地位向上を目指したが、20(大正9)年1月、議会は法案を取り上げず解散した。6月、議会は否決した。

賀川の議会主義に対し、無政府主義者・大杉栄[補註2]は直接行動を唱えた。ストライキ、階級闘争、その先は暴力革命である。普通選挙法否決によって、労働運動は議会主義と直接行動主義に分かれていく。それでも賀川の地道な活動は高く評価され、自伝小説『死線を越えて』(1920年、改造社)が広く読まれていた。多くの信奉者がいた。川崎・三菱大争議直前の大阪の大争議でもリーダーとなり、会社側との交渉に尽力した。そして、神戸の大争議。

〈一九二一年六月二十五日、神戸・三菱内燃機の職工たちが「横断組合の存在をみとめよ」「団体交渉権をみとめよ」「賃上げせよ」などの嘆願書を会社に提出した。〉註4

すぐに川崎造船所の職工たちも決起、880人がサボタージュに入った。社員・技師たちとの待遇の差(食堂・トイレ別)や事故の保障に不満があった。会社創立25周年記念の祝い金が少なかったことも原因のひとつだった。労働側の要求は、労働条件を会社と話し合う工場委員制度採用、他の労組への加入承認、日給増額、である。

この時、松方幸次郎社長は海軍の密命でドイツUボート設計図を入手するため海外出張中だった。重役たちには権限がないし、責任を取りたくないで、交渉を引き延ばすだけだった。以前紹介したが、労働側は松方に帰国要請の電報を打つほど、彼を信頼していた。

争議は、三菱では内燃機から造船所へ、川崎も本社工場から他部門・他工場へ広がった。7月7日、川崎本社内のデモに人夫供給業者が襲いかかり、けが人が出た。会社は関係を否定したが、1万7千人がサボタージュに入った。8日、三菱は内燃機・造船・電機で計1万2千人がストライキ。労働側は友愛会の指導による統一行動をとり、神戸支部長・久留弘三と賀川が全権委員に選出された。

7月10日は日曜日。7時頃から会下山公園に3万3500人が集合した。前年の第1回メーデーで東京上野公園に集まった労働者は5千人、運動の高まりがわかる。8時、久留総指揮者・賀川参謀ら指揮班4名が先頭を歩き、楽隊、電気工、造船・造機・製缶、国鉄鷹取、川崎、三菱、印刷とその他工場など各労働者団体が行進する。最後尾には救護班(医師、看護婦、薬品)の自動車が続いた。指揮班から事前に以下の注意書が配布されていた。

一、行列と行列の距離を相当おく事

一、行列内に所属不明者を混入せざる事

一、伝令の通報を迅速に実行の事

一、棍棒その他凶器の所持を厳禁の事

一、酒気を帯たる者、暴行の憂いある者は参加せしめざる事 註5

別動隊・川崎分工場の千人が神戸駅で大阪からの応援隊を迎えた。大原社会問題研究所の依頼で映画会社(日活)が駅ホームから撮影を開始し、デモ行進をオープンカーで追いかけた。

本隊は会下山から葬礼道(そうれんみち、会下山に火葬場があった)を南下し、大開通から東へ新開地に向かう。新開地本通りで小休止、路地の共同水道で水分補給。近隣商店からサイダーや冷やし飴が配られた。

〈……この通りは朝な夕な川崎へ通う道筋であり、

職工たちはお得意である。商店は日ごろの恩顧にむくいるのはこの時ばかり、／＼たいへんでんな。まあ、しっかりやとくんははれ」／と職工たちをはげました。だがこの声援はデモ隊に対する評価ではない。暑さの中で汗と塵にまみれながら行進する職工たちに対する同情にとどまった。〉註5

別動隊・応援隊は神戸駅から東に向かい、各新聞社に挨拶しながら行進した。駅最寄りの毎日新聞支局では2階から5色の紙吹雪が撒かれた。続いて、栄町通の神戸新聞社、又新日報、朝日新聞支局を訪問。周辺商店が氷水を用意してくれていた。滝道(現在のそごう百貨店東側阪神電車終点、布引の滝に向かう道)から東遊園地、折り返して新開地で本隊に合流した。

デモ隊は新開地から南下し川崎本社、和田岬の三菱造船所を経て、川崎分工場、兵庫分監(監獄)跡に到着したのは11時半。最後尾の到着は12時だった。ここでも水業者たちが氷塊400貫を提供した。

久留は労働者たちの熱心な行動と応援隊に感謝の挨拶をし、デモ隊は労働歌と万歳で順次解散した。続いて新開地・聚楽館で開催された演説会も満員になった。賀川は「光明と自由労働」と題し演説。秩序正しいデモを誇り、治安警察法撤廃を提唱し、こう締めくくった。

〈労働者の叫びが真に人間としての生活を得んが為めである以上此の際如何なる人格者なる指導者が調停に這入ることも委員制度の採用及び団体交渉権の承認を得ぬ以上断乎として一步も退くものではない〉註2

16時頃、演説会は万歳三唱して解散した。

註1 『大阪朝日新聞 1921.7.11記事』『復刻版 三菱、川崎労働争議顚末』社会運動資料刊行会、1977年[初版、無弦琴生編、丸一書店、1921年]所収)

写真 久留(総指揮者の襟)、賀川(参謀の襟)

註2 『神戸新聞』1921.7.11

註3 隅谷三喜男「賀川豊彦」 岩波書店同時代ライブラリー、1995年

註4 神戸新聞社編『火輪の海 下』神戸新聞総合出版センター、1990年

註5 武田芳一『熱い港――大正十年・川崎三菱大争議』太陽出版、1979年

*新聞及び『復刻版』の原文は旧字・旧かな。

補註1 大逆事件。1910(明治43)年5月、天皇暗殺を企てたとして無政府主義者・社会主義者26名が検挙され、24名が大逆罪で死刑判決を受けた。翌年1月幸徳秋水、菅野スガラ12名が死刑(12名減刑)。暗殺を計画した者は4名いた(あくまで計画)が、他全員無関係だった。

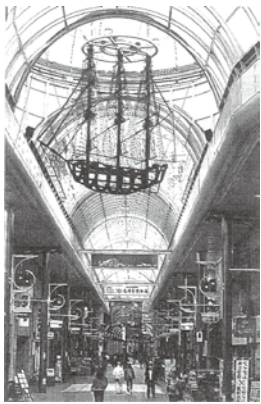
補註2 大杉栄(1885～1923年)。幸徳秋水亡き後、荒畑寒村と『平民新聞』を創刊するなど、社会運動に大きな影響を持った無政府主義者。大逆事件当時は別の事件で投獄中だった。関東大震災後の混乱の最中、憲兵隊によって妻(伊藤野枝)と甥共に殺された。



出来事ファイル (No.19-1)

■ロドニー号

11月6日付の朝日新聞夕刊の「Art Trip」欄に、元町6丁目商店街振興組合がアーケードの完成を記念して製作したロドニー号が紹介されている。ロドニー号は、1868年1月1日、神戸開港を祝い、港内で祝砲をあげた英国艦隊の旗艦。14分の1の大きさで、設置当初は、道行く人に船体のすべてを観てもらおうと、ゆっくり回転していた。



11月6日付朝日新聞夕刊

■神戸村の古文書を読む会

江戸時代後期神戸村の様子を伝える市立中央図書館所蔵「神戸村文書」を読む会が、11月12日(月)の18時から4回にわたり、まちづくり会館で開催された。最終回には中央図書館で「神戸村文書」実物の見学会も。主催したのは神戸大学人文学研究科地域連携センターで、同大学大学院人文研究科の市澤哲教授が指導、熱心な神戸村ファンを楽しませた。



■元町駅北再整備基本構想越年

県庁舎の再整備計画にあわせ、兵庫県・神戸市・JR西日本で構成する「元町山手地区再整備基本構想・基本計画検討委員会」(委員長・安田丑作神戸大学名誉教授)は、基本構想の取りまとめを来年に持ち越した。県は、大学のサテライトキャンパスやランドマークとなる交流拠点の誘致、元町駅と一体の商業施設整備を盛り込んだ構想を打ち出している。(11月30日神戸新聞)



鯉川筋前にひろがる元町駅東口前の建物群

■生田警察署と懇談会

11月27日(火)タウン協議会は元町商店街と合同で、生田警察署との懇談会をまちづくり会館で開いた。原吉三兵庫県議員、生田警察署から増田稔・署長、中村裕之・生活安全官、柏谷直也・地域交通官ら6名、協議会から奈良山会長以下、元栄海1～6丁目の自治会会長、元町商店街から各丁理事長のほか専門部会長らが出席、地域の交通問題を中心に懇談した。



■みんなでつくるクリスマス

元町6丁目商店街振興組合は11月28日(水)15時、「みんなでつくるクリスマスツリー」のイベントを開催した。クリスマスツリーに六甲山の間伐材を利用したオーナメントでかざり付け、あなただけのクリスマスツリーを作成しようというもの。保育園幼児や父兄を前に、山崎小夜子さんの歌声でオープニング。12月25日までに、どんな花が咲き乱れているか、楽しみに。



メリケンパーク

■KOBE満腹キッチン！

南京町生誕150年記念事業実行委員会では10月13日(土)と14日(日)の両日、大丸神戸店沿いの明石町通を会場に「KOBE満腹キッチン」を開いた。13日のライブキッチンには曹祐仁(老祥記)、呉正一(民生)、劉緒雲(劉家荘)、14日は宮澤薫(宮澤)、岡本和弘(和)が兵庫県産の食材を使った料理を創作、先着50名に販売したほか、元祖ぎょうざ苑など15の有名中華店も参加して賑わった。



■臨海部活性化に早駒運輸らを選出

神戸市は、メリケンパークから中突堤、ハーバーランドにまたがる臨海部一帯を、地域で活動する早駒運輸のほか、三菱倉庫神戸支店、博報堂関西支社、神戸ハーバーランド(株)4社連合を指定管理者に指名、エリアへの来場者を年間2万人ずつ増やすため、年約1億3200万円で19年度から5年間、運営を委託する。開会中の市会議決を経て正式に決定する。(11月29日神戸新聞)



メリケンパーク

□中国史人游行参加者募集中

南京町商店街振興組合では2月5日(火)に開催する2019南京町春節祭中国史人游行の参加者を募集している。三宮や元町界隈を中心に、楊貴妃など中国の歴史上人物に扮してまちを游行、春節祭を華やかに彩る行事。住所・氏名・年齢(18歳以上)・電話番号・職業・身長・応募の理由を明記、3か月以内の本人胸上写真を同封の上、〒650-0023神戸市中央区栄町通1-3-18*2019南京町春節祭実行委員会」まで、1月5日(土)必着で郵送のこと。



2019年2月5日(火)